

## 1 中期学校経営方針

### (1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標
だれもが安心して豊かに学べ、まちと共に歩む学校にします。 ○いじめのない学校をめざし、予防的な対応・早期発見・早期対応に努めます。 ○子どもが自尊心を育み、自他をかけがえのない存在と実感できるよう努めます。 ○子どもが主体的に学び、成長を実感できる授業を実践します ○奈良のまちを知り、地域に貢献しようとする思いとまちを愛する心情を育てます。

### (2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
授業改善	言語活動の充実を図り、国語で正確に理解する力を育むために、豊かな語彙力を広げる工夫を行う。	・自ら興味をもち、自分事として考えたり根拠をもとに話したりすることができるように、国語科の重点研究を進め、問題を解決する力を養う。 ・各学年で、見方や考え方を高めるために、どのような手立てを取るかなどについて取り組んでいく。
担当	研究推進部	

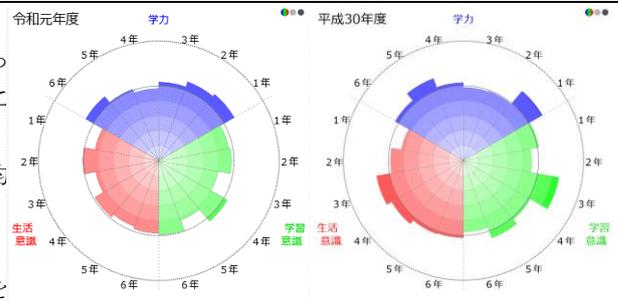
## 2 学習状況調査等からの実態把握

### (1) 学力の概要と要因の分析

令和元年の学習状況調査に関して、4年生が市の平均をやや下回った以外は、市の平均を上回った。とくに、1年、2年、5年は大幅に上回っている。全校としては学力が向上していったとみとれる。

一方で、学習意識及び生活意識においては、どの項目でも市の平均に及ばない結果となっていた。生活意識では、「学校生活」と「自己意識」が数値的に低かった。「勉強が好きか」という設問で、市の平均を下回ってしまっていたことから、今後、児童の興味関心や探求心を

高め、自分の考えを表現・交流し、友達と学ぶ楽しさに気付く授業づくりが全学年通して求められていると考える。



### (2) 教科学習の状況（一昨年の学習状況調査をもとに）

- 国語科：市の平均を上回る学年が多い中で、5年生は下回っている。特に「書く能力」と「読む能力」が課題となっている。
- 算数科：全体的に、概ね市の平均を上回る。全体的には「数学的な考え方」がやや弱く、全校的な課題といえる。
- 社会科：全体的に、市平均を上回る。「思考・判断・表現」分野に課題が見られる。
- 理科：学校全体で意識の高まりがみられた。ほとんどの学年の学力が、市の平均を上回った。

### (3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

平成28年度から令和元年度までの過去4年間の学力の状況の経年変化をみると、全体としては改善が見られ、市の平均と比較すると、学力が上がってきた感がある。昨年度課題であった理科の学習意識についても、学校全体で高まりがみられ、学力自体もほとんどの学年が市の平均を上回った。理科を軸とした重点研究の成果ともいえる。5年生に関しては、学力の高い教科と低い教科の間での隔たりが大きく、最終年に向けての課題となっている。

一方で、生活意識については、これまで維持してきた高い数値が下がってしまった。学習に対して意欲が高まり切らなかったという結果である。課題として(1)にあるように、興味関心や探求心を引き出し、学ぶ楽しさに気付く授業づくりを行う必要がある。学年ごとに細かい課題点は異なっているが、総じて、表現・交流する際には、課題に対する考えを、子ども一人ひとりが明確にもち、交流することができるように指導を工夫することが不可欠である。

また、基礎的な学力定着についても具体的取り組みを模索する必要がある。若く経験年数の浅い職員も増えつつあり、いわゆる「読み・書き・そろばん」といった、繰り返しの指導により高まる学力についても、全校を上げて、指導方法の研究、模索を今一度していく必要性が感じられる。ここ2年間のコロナ禍の影響により、どのような影響があるかについても状況を確認し、指導にいかしていければと考える。また、今年度の学習状況調査の結果により、現状を把握し、今後に生かしていく。

### 3 令和4年度 学年・教科等としての具体的取組

<p>1 学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○説明する文章や紹介する文章を書くなど、表現活動を大切にし、多く取り入れるようにする。</li> <li>○算数では、具体物の操作などを多く取り入れる。繰り返しの練習を多くして、基礎学力を定着させる。</li> <li>○わからないことを尋ねたり、気持ちを言葉や表情、態度で表したりしながら、相手に伝える表現の仕方を指導する。</li> <li>○自分の知識や経験と結び付けて、もって感想や考えをもつように指導する。</li> </ul>	<p>2 学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国語・生活科等で、体験を通して報告する文章や説明する文章を書くなど、表現活動の機会を多くするとともに、話し合いをする場面を多く取り入れる。</li> <li>○算数では、大事だと思った点を確かめたり、自分の考えの理由を伝えたりしながら話し合い、学習を深める。</li> <li>○自分の知識や経験と結び付けて、感想や考えをもつように指導する。</li> <li>○学習の基本的なルールの定着を図る</li> </ul>
<p>3 学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国語では、自分の気持ちを言葉や文章で表したり、相手に伝えたりすることができるようにする。</li> <li>○話し合い活動では、相手の考えをよく聞き、理由や根拠を明らかにして話すことができるようにする。</li> <li>○算数では、図や式を用いながら、考え方を説明することができるように指導する。</li> <li>○社会科や理科では、見学・調査したことを目的に応じて書いたり記録したりするなど、表現活動を大切に指導する。</li> <li>○学習の基本的なルールを徹底し、基礎学力の定着を図る。</li> </ul>	<p>4 学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教科のつながり、学習のつながりを意識して取り組めるように指導する。</li> <li>○ものの見方や考え方を広くし、根拠をはっきりさせながら、自分の考えをもって取り組むことができるようにする。</li> <li>○ペア学習や小グループなど学習形態を工夫し、自分の考えを表現することができるようにする。また、互いの考えを受け入れたり認め合ったりしながら、自分の考えを深められるように指導する。</li> <li>○集中・落ち着きのある学びを大切に、基礎基本の定着を図る。</li> </ul>
<p>5 学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の中で説明する文章、意見を述べる文章を書くなど、表現活動を大切にする。</li> <li>○常にめあてを意識させ、関連付けたり分類・整理したりして考える学習と振り返りを学習の中で計画的に位置づける。</li> <li>○話し合い活動の中で、お互いの意見を伝え合い、意見や考えをより深めていけるようにする。</li> <li>○算数では、学級を3つに分け、少人数指導を行うことにより、一人ひとりへのきめ細やかな指導を行い、基礎学力の定着を図る。</li> </ul>	<p>6 学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○友達や資料とじっくり対話する時間を設け、よく考え、学習で得た知識や理解していることを使いこなす力をつける。</li> <li>○表現する活動を多く取り入れる。友達の表現を見たり聞いたりすることで、自分の考えを深め、視野を広げ、お互いを認め合うことができるようにする。</li> <li>○今まで身に付けた知識や技能を生かし、既習内容とのつながりや友達の意見とのつながり（類似点や相違点など）、多面的な見方や考え方ができるように工夫して指導を行う。</li> <li>○基礎内容を繰り返し行いながら、基礎的な学力の定着を図っていく。</li> </ul>
<p>個別支援学級</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を活用する場面を設ける。</li> <li>○一人ひとりに応じた分かりやすい情報発信をするなど、言語環境を整備する。</li> <li>○基礎的な学力をつけるために、漢字や計算などの学習を繰り返す。また、学習したことを活用する場面を設けて学力の定着を図る。</li> <li>○交流級での学習が有意義となるよう、事前学習をする時間を設け、適切な場面で支援に入る。</li> </ul>	